# （学校番号086）　令和８年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【与野南小学校】

| ① | 今年度の目標と学力向上策 |
|---|---|
| 重点的に育成する資質・能力 | ①各教科において領域別、観点別にみたときに以下の課題がみられた。<br>・国語において「話すこと、書くこと」に課題がみられる。<br>・算数において「思考・判断・表現」に課題がみられる。<br>②学校教育目標「笑顔輝く楽しい学校～みずから学び、なかまと学び、みんなで伸びる～」を達成できる児童を育むため、教<br>員の授業向上を目指し、授業づくりを推進し、主体的・対話的で深い学びを実現する必要がある。 |
| ⇓ | |
| 実施する学力向上策【時期・頻度】 | ①について<br>・授業の最初には、授業の流れを伝えて、学習のゴールイメージを膨らませ何を学習するのか明確にする。【毎時間】<br>・授業の最後に、目的や内容を焦点化し、学習の振り返りを行う。【毎時間】<br>・児童が文章を読み取る場面では、主語と述語の関係を意識して読み取れるようにするとともに、書く活動の際にも、主語を児童に意識させていく。【通年】<br>・算数において、計算ができるようにするだけでなく、立式の場面では、問題場面を想起し、式の意味を考えることができる学習活動行う。【通年】<br>②について<br>・主体的・対話的で深い学びを実現させる土台となる基礎的な学力を身に付けるため、学力向上カウンセリング学校訪問を要請した研修を教職員に行う。【２学期】<br>・安心して学習に取り組める環境づくりにつながる学習規律の徹底を図る。 |

| ② | 全国学力・学習状況調査結果の分析 |
|---|---|
| 特徴的な結果 | 【国語】○知識技能では、全国・埼玉県を約１割も上回り、言葉の特徴や使い方に関する事項に関しては８割の正答であった。●文章を読んで理解したことを踏まえて、自分の考えをまとめる問題では、記述式になると正答が５割近くに下がる。また、無解答も２割と増加する傾向が見られた。また、他の選択式の回答においては、約１割が無解答となっている。<br>○「国語の授業の内容を理解しているか」について9割が理解していると答えていた。<br>【算数】○測定では、約9割、知識・技能に関しては約7割の正答率であった。●「百分率からの割合に関しての変化と関係」「帯グラフからの割合を読み取るデータの活用」では、無回答が約１割と多かった。○算数の授業の内容を分かっている児童の割合が多く将来役に立つと思っている児童も約9割と多かった。 |
| ⇓ | |
| 結果から考えられる児童生徒の実態 | 【国語】☆国語の授業では、理解を示す児童が多いため、学習の定着も図れている。☆５年生までの授業においても教師が児童のことを思って指導していることを児童自身が理解しているので得意分野として感じている児童も多い。★書くことに関しては、記述式になると書くことが極端に苦手となっている。★分からない問題に対しては、選択式であっても空欄にして選ばない様子が見られる。<br>【算数】☆算数という教科が得意で好きな児童が多いのが正答率の結果にもつながっている。<br>☆将来のことも考えている児童が多いため、自発的に学ぶ児童の姿も推測される。★割合の問題では、無解答が多いのは、理解している児童が多くないことがわかる。★データや図など必要な情報を有効活用できず理解していない児童がいることがわかった。<br>土日の学習時間では、「３０分から２時間」が７割と学習の時間が多いわけではない。自学習の時間が少ないという実態が見られた。 |

| ③ | 中間評価 | |
|---|---|---|
| 学力向上策の実施状況 | 評価（※）<br>B | ①を達成するために校内研修における教材研究や相互の授業観察を行いながら日々努力している。特に授業の最初や最後の工夫であったり、主体的・対話的で深い学びを実現させる土台となる基礎的な学力の向上させる授業構成であったりと毎日の授業で試行錯誤を行っている。<br>②を達成するために学力向上カウンセリング研修では、「帳票」を活用した分析の行い方を学び、児童の実態について考察した。学習に取り組める環境づくりの一つとして学習規律の徹底を日々、図っている。 |
| ⇓ | | |
| 学力向上策の見直し | ①については、　○児童が文章を読み取る場面では、主語と述語の関係を意識して読み取れるようにするとともに、書く活動の際にも、主語を児童に意識させていく。○算数において、計算ができるようにするだけでなく、立式の場面では、問題場面を想起し、式の意味を考えることができる学習活動行う。という策をもう少し広げて「書く活動だけではなく、普段の発表や人と話す際にも主語を意識させるようにする。」「式の意味を考えることができるだけではなく文章題が聞いていること、分かっていること等も理解できるように意識させるようにする。」ということも含めていきたい。<br>②については、安心して学習に取り組める環境づくりの中に、教室整備や合理的配慮も追加していく。 | |

| ④ | さいたま市学習状況調査結果の分析 |
|---|---|
| 特徴的な結果 | |
| ⇓ | |
| 結果から考えられる児童生徒の実態 | |

| ⑤ | 年度末評価 | |
|---|---|---|
| 学力向上策の実施状況 | 評価（※） | |
| ⇓ | | |
| 今年度の成果と次年度の課題 | | |

| 【参考データ】<br>※記入任意 | 「重点的に育成する資質・能力」の状況をみる指標<br>※この欄に記入した内容は、学校Webページには掲載しません。 |
|---|---|
| 全国学力・学習状況調査の調査問題・質問項目（内容・結果） | |
| さいたま市学習状況調査の調査問題・質問項目（内容・結果） | |

※評　価
A　8割以上(達成)　　B　6割以上(おおむね達成)　　C　6割未満(あと一歩)